最新改訂：2011年 1月 1日
印　　刷：2011年 1月 1日

1. 製品及び会社情報

製 品 名 ： デブコンＳＵ　（主剤）

会 社 名 ： 株式会社 ITW パフォーマンスポリマーズ＆フルイズ ジャパン
住　所 ： 大阪府吹田市江の木町30-32
担当部門： 品質管理部
電　話 ： 06-6330-7118(代)
Ｆ Ａ Ｘ ： 06-6330-7083

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体		：区分外
急性毒性	経口	：区分外
	経皮	：区分外
	吸入（蒸気）	：分類できない
皮膚刺激性／腐食性		：区分３
眼損傷性／刺激性		：分類できない
呼吸器感作性		：区分１
皮膚感作性		：区分１
生殖細胞変異原性		：分類できない
発がん性		：分類できない
生殖毒性		：分類できない
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）		：分類できない
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）		：分類できない
吸引性呼吸器有害性		：分類できない
水生環境有害性（急性）		：分類できない
水生環境有害性（慢性）		：分類できない

絵表示又はシンボル ：健康有害性

注意喚起語 ：危険

危険有害性情報

・軽度の皮膚刺激
・吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

注意書き

・火気注意
・熱・火花・裸火のような着火源から遠ざけること。
・直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管すること。
・開封後は速やかに使用し、保管する際は、密閉すること。
・使用前に取扱説明書を入手すること。
・全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
・取扱う際に、適切な保護具、保護手袋を着用すること。
・この製品を使用する時に飲食や喫煙をしないこと。
・取扱い後は、よく手を洗うこと。

・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
・汚染した衣類は再使用する場合は洗濯すること。
・環境への放出を避けること。
・漏出物を回収すること。
・眼に入った場合は、流水で数分間以上洗い流すこと。
・皮膚についた場合は多量の水と石鹸で洗うこと。
・毛髪に付着した場合は流水／シャワーで洗い流すこと。
・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
・飲み込んだ場合は、水で口の中をよく洗浄すること。
・気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。
・内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 ： 混合物
化学名又は一般名 ： 変性イソシアネート組成物

化学品名		別名	含有量(%)※	CAS No.	官報公示整理番号	PRTR法
イソシアネート			ー	ー	ー	ー
改質剤	鉱油		25-35	ー	ー	ー
	（他）		ー	ー	ー	ー

※法規制のあるものについて記載

4. 応急処置

吸入した場合： 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移す。呼吸停止又は微弱な場合は、衣類を緩めて呼吸気道を確保した上で酸素吸入を行う。体を毛布で覆い、保温して安静に保ち、速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合： 汚染された衣服、靴等を速やかに脱ぎ捨てる。皮膚に触れたら直ちに拭き取り、速やかに流水又はお湯で洗浄し、石鹸で洗い落とす。必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合： まぶたを指で押し上げて、隅々まで水が行き渡るように流水で15分以上洗浄した後、速やかに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合： 被災者に意識がある場合は、水で口の中をよく洗浄し、大量の水を飲ませて吐き出させる。被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。速やかに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤： 粉末、炭酸ガス、泡　、乾燥砂

使ってはならない消火剤：

火災時の特有の危険有害性： 消火活動の際には有毒ガスが発生するので、煙を吸入しないように注意する。

特定の消火方法： 適切な保護具を着用する。防護服を着用していない人を作業場から遠ざける。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。爆発のリスクを最小限にする為、霧状の水を使用して容器を冷却する。

消火を行う者の保護： 耐熱性着衣などを着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
周囲にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止し、風上より作業する。危険区域での火気使用を禁止する。作業の際には保護手袋、前掛け、防毒マスク等を使用し、皮膚つけたり、蒸気等を吸入しないようにする。

環境に対する注意事項：
河川等に排出され環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材：
大量に漏洩した場合には、土砂で流れを止め、下水、河川、低所へ入りこまないよう、安全な場所に導いて回収する。少量の場合は、土砂、珪藻土、おがくず等に吸着させてできるだけ除去し、密閉できる空容器に回収する。回収不可能なものはアンモニア水、アルコールなどを散布し、中和して大量の水で薄めて流す。その際、排水が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。中和剤を散布して中和し、土砂などに吸収させ除去した後、こぼれた場所を十分に水洗する。この時生じた廃棄物は、焼却するか廃棄物処理業者に正規の方法で委託し、処分する。

二次災害の防止策：
付近の着火源となりそうなものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い　技術的対策：　火気厳禁を励行する。
皮膚には付けないように、保護手袋、前掛け等を着用する。また、作業着、手袋等に付着したまま着用しない。
静電気対策のため、装置などは接地し、電気機器類は防爆型を使用する。
蒸気の吸入は避け、取扱う作業場所には局所排気装置を設ける。
必要に応じ、防塵マスク、ホースマスク等を着用する。
夏場、汗をかくような時は、皮膚から吸収しやすいので、特に充分に換気し、顔等露出部分に保護クリームを塗ったり、長袖を着用し、蒸気に直接触れないようにする。作業中に汚染されたウエス、保護手袋は廃棄し、作業者への接触のないようにする。取扱い後はうがいを行い、顔、手を充分に洗う。

注意事項：　密閉された場所における作業には充分な局所排気装置を付け、適切な保護具をつけて作業する。

保管　適切な保管条件：　容器の蓋を密閉状態にし、直射日光を避け、換気の良い冷暗所に置く。
火気厳禁を励行する。吸湿すると尿素化合物が析出して蓋が取れなくなったり、二酸化炭素の発生により容器が破損する恐れがあるので、乾燥した場所に保管して下さい。

安全な容器包装材料：現行容器のまま保管

8. 曝露防止及び保護措置

設備対策：　作業所はできるだけ自動化し、混合、加熱工程等の設備はできるだけ密閉構造にする。取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明示する。

保護具：　有機ガス用防毒マスク、化学薬品が浸透しない保護手袋、保護眼鏡（側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）、長袖の着衣、必要に応じて長靴、耐油性の合成樹脂又はゴム製の前掛け、腕カバー等を着用。

9. 物理的及び化学的性質

外観　　**形状**：液状
　　色：淡黄色透明
臭い　　：特異臭
pH（5%溶液あるいは水中のスラリー）：N/A
融点／凝固点：N/A
沸点、初留点と沸騰範囲：N/A
引火点：＞200℃（クリーブランド開放式）
自然発火温度（発火点）：N/A
燃焼又は爆発範囲の上限／下限：特に爆発の問題なし
蒸気圧（mmHg）：N/A
蒸気密度（空気＝1）：N/A
比重：0.95-1.01
溶解性：水と化学反応
分解温度：N/A

10. 安定性及び反応性

安定性：常温・常圧、密閉保管では安定。開封状態で放置すると空気中の水分と反応する。
危険有害反応可能性：水、アルコール、アミン等の活性水素化合物と反応し発熱する。塩基性物質やある種の金属化合物等の存在によって重合発熱する。
避けるべき条件：高温、火花及び直火。混触禁止物質
混触禁止物質　：水、アルコール、アミン等の活性水素化合物。塩基性物質、金属化合物。
危険有害な分解生成物：燃焼等によりＣＯ等の有害ガスを発生するおそれがある。

11. 有害性情報

急性毒性　**経口**：　4,831mg/kg
　　吸入：　50mg/m³（ｲｿｼｱﾈｰﾄ）
　　経皮：　7,665mg/kg
皮膚腐食性／刺激性：
　軽度の皮膚刺激。
呼吸器感作性／皮膚感作性：
　吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれがある。皮膚への接触によりアレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。
眼に対する重篤な損傷／刺激性：
　刺激性がある。
経口毒性：
　飲み込むと胃部不快感を引き起こすおそれ。

12. 環境影響情報

急性水生毒性：分類できない
慢性水生毒性：分類できない

残留性／分解性：混合物としてデータなし
生体蓄積性：混合物としてデータなし

13. 廃棄上の注意

「7.取扱い及び保管上の注意」の記載事項による。
廃棄は焼却により行うが、その方法は次のいずれかによる。

- 焼却炉の火室へ投げ込み焼却する。
- 主剤と硬化剤を混合し硬化させて、都道府県知事の許可を受けた廃棄物業者に正規の方法にて委託し、処分する。
- 廃棄する際、他の物質と混合すると化学反応や発火をする恐れがあるので、「10.安定性及び反応性」の項を参照の上、事前に安全性を充分確認すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 陸上（RID/ADR）： 法令の基準に従い積載、運送を行う。
海上（IMDGｺｰﾄﾞ）： 法令の基準に従い積載、運送を行う。
航空（ICAO-TI/IATA-DGR）：法令の基準に従い積載、運送を行う。

国連分類：6.1
国連番号：2810
容器等級：Ⅱ

15.適用法令

消防法 ：危険物第 4 類第 4 石油類
労安法　通知物質 ：法第 57 条の 2､施行令第 18 条の 2 別表 9（168 鉱油）

16.その他

本製品に関する有害性等の文献はありません。従って、その評価は原料メーカーからの資料を基に安全に取り扱う為の留意点としてまとめたものであり、データは充分ではありませんので、取扱には充分ご注意をお願い致します。

最新改訂：2011年 1月 1日
印　　刷：2011年 1月 1日

1．製品及び会社情報

製 品 名 ： デブコンＳＵ　（硬化剤）

会 社 名 ： 株式会社 ITW パフォーマンスポリマーズ＆フルイズ ジャパン
住　所　： 大阪府吹田市江の木町30-32
担当部門： 品質管理部
電　話　： 06-6330-7118(代)
Ｆ Ａ Ｘ ： 06-6330-7083

2．危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体		：区分外
急性毒性	経口	：区分外
	経皮	：分類できない
	吸入（蒸気）	：分類できない
皮膚刺激性／腐食性		：分類できない
眼損傷性／刺激性		：分類できない
呼吸器感作性		：分類できない
皮膚感作性		：分類できない
生殖細胞変異原性		：分類できない
発がん性		：分類できない
生殖毒性		：分類できない
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）		：分類できない
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）		：分類できない
吸引性呼吸器有害性		：分類できない
水生環境有害性（急性）		：分類できない
水生環境有害性（慢性）		：分類できない

絵表示又はシンボル　：なし

注意喚起語　：なし

危険有害性情報　：なし

注意書き

・火気注意
・熱・火花・裸火のような着火源から遠ざけること。
・直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管すること。
・開封後は速やかに使用し、保管する際は、密閉すること。
・使用前に取扱説明書を入手すること。
・全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
・取扱う際に、適切な保護具、保護手袋を着用すること。
・この製品を使用する時に飲食や喫煙をしないこと。
・取扱い後は、よく手を洗うこと。
・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
・汚染した衣類は再使用する場合は洗濯すること。
・環境への放出を避けること。
・漏出物を回収すること。

・眼に入った場合は、流水で数分間以上洗い流すこと。
・皮膚についた場合は多量の水と石鹸で洗うこと。
・毛髪に付着した場合は流水／シャワーで洗い流すこと。
・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
・飲み込んだ場合は、水で口の中をよく洗浄すること。
・気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。
・内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること

3．組成、成分情報

化学物質・混合物の区別　：　混合物
化学名又は一般名　：　ポリオール組成物

化学品名		別名	含有量(%)※	CAS No.	官報公示整理番号	PRTR法
ポリオール			ー	ー	ー	ー
改質剤	鉱油		25-35	ー	ー	ー
	(他)		ー	ー	ー	ー

※法規制のあるものについて記載

4．応急処置

吸入した場合： 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移す。呼吸停止又は微弱な場合は、衣類を緩めて呼吸気道を確保した上で酸素吸入を行う。体を毛布で覆い、保温して安静に保ち、速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合： 汚染された衣服、靴等を速やかに脱ぎ捨てる。皮膚に触れたら直ちに拭き取り、速やかに流水又はお湯で洗浄し、石鹸で洗い落とす。必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合： まぶたを指で押し上げて、隅々まで水が行き渡るように流水で15分以上洗浄した後、速やかに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合： 被災者に意識がある場合は、水で口の中をよく洗浄し、大量の水を飲ませて吐き出させる。被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。速やかに医師の診断を受ける。

5．火災時の措置

消火剤： 粉末、炭酸ガス、泡　、乾燥砂

使ってはならない消火剤：

火災時の特有の危険有害性： 消火活動の際には有毒ガスが発生するので、煙を吸入しないように注意する。

特定の消火方法： 適切な保護具を着用する。防護服を着用していない人を作業場から遠ざける。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。爆発のリスクを最小限にする為、霧状の水を使用して容器を冷却する。

消火を行う者の保護： 耐熱性着衣などを着用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

周囲にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止し、風上より作業する。危険区域での火気使用を禁止する。作業の際には保護手袋、前掛け、防毒マスク等を使用し、皮膚つけたり、蒸気等を吸入しないようにする。

環境に対する注意事項：

河川等に排出され環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材：

大量に漏洩した場合には、土砂で流れを止め、下水、河川、低所へ入りこまないよう、安全な場所に導いて回収する。少量の場合は、土砂、珪藻土、おがくず等に吸着させてできるだけ除去し、密閉できる空容器に回収する。この時生じた廃棄物は、焼却するか廃棄物処理業者に正規の方法で委託し、処分する。

二次災害の防止策：

付近の着火源となりそうなものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

7．取り扱い及び保管上の注意

取扱い　技術的対策：　火気厳禁を励行する。
皮膚には付けないように、保護手袋、前掛け等を着用する。また、作業着、手袋等に付着したまま着用しない。
静電気対策のため、装置などは接地し、電気機器類は防爆型を使用する。
蒸気の吸入は避け、取扱う作業場所には局所排気装置を設ける。
必要に応じ、防塵マスク、ホースマスク等を着用する。
夏場、汗をかくような時は、皮膚から吸収しやすいので、特に充分に換気し、顔等露出部分に保護クリームを塗ったり、長袖を着用し、蒸気に直接触れないようにする。作業中に汚染されたウエス、保護手袋は廃棄し、作業者への接触のないようにする。取扱い後はうがいを行い、顔、手を充分に洗う。

注意事項：　密閉された場所における作業には充分な局所排気装置を付け、適切な保護具をつけて作業する。

保管　適切な保管条件：　容器の蓋を密閉状態にし、直射日光を避け、換気の良い冷暗所に置く。
火気厳禁を励行する。吸湿すると尿素化合物が析出して蓋が取れなくなったり、二酸化炭素の発生により容器が破損する恐れがあるので、乾燥した場所に保管して下さい。

安全な容器包装材料：現行容器のまま保管

8．曝露防止及び保護措置

設備対策：　作業所はできるだけ自動化し、混合、加熱工程等の設備はできるだけ密閉構造にする。取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明示する。

保護具：　有機ガス用防毒マスク、化学薬品が浸透しない保護手袋、保護眼鏡（側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）、長袖の着衣、必要に応じて長靴、耐油性の合成樹脂又はゴム製の前掛け、腕カバー等を着用。

9．物理的及び化学的性質

外観　形状：液状
色：淡黄色透明
臭い　：特異臭
pH（5%溶液あるいは水中のスラリー）：N/A
融点／凝固点：N/A
沸点、初留点と沸騰範囲：N/A
引火点：＞200℃（クリーブランド開放式）

自然発火温度（発火点）：N/A
燃焼又は爆発範囲の上限／下限：特に爆発の問題なし
蒸気圧（mmHg）：N/A
蒸気密度（空気＝1）：N/A
比重：0.86-0.92
溶解性：水にほとんど溶けない
分解温度：N/A

10．安定性及び反応性

安定性：常温・常圧、密閉保管では安定。
危険有害反応可能性：強酸化剤等と反応する。発熱を伴う場合がある。
避けるべき条件：高温、火花及び直火。混触禁止物質。
混触禁止物質　：強酸化剤。
危険有害な分解生成物：燃焼等によりＣＯ等の有害ガスを発生するおそれがある。

11．有害性情報

急性毒性　経口： 12,427mg/kg
吸入： N/A
経皮： N/A
皮膚腐食性／刺激性：N/A
呼吸器感作性／皮膚感作性：N/A
眼に対する重篤な損傷／刺激性：N/A
経口毒性：飲み込むと有害のおそれ。

12．環境影響情報

急性水生毒性：分類できない
慢性水生毒性：分類できない

残留性／分解性：混合物としてデータなし
生体蓄積性：混合物としてデータなし

13．廃棄上の注意

「7.取扱い及び保管上の注意」の記載事項による。
廃棄は焼却により行うが、その方法は次のいずれかによる。

- 焼却炉の火室へ投げ込み焼却する。
- 主剤と硬化剤を混合し硬化させて、都道府県知事の許可を受けた廃棄物業者に正規の方法にて委託し、処分する。
- 廃棄する際、他の物質と混合すると化学反応や発火をする恐れがあるので、「10.安定性及び反応性」の項を参照の上、事前に安全性を充分確認すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 陸上（RID/ADR）： 法令の基準に従い積載、運送を行う。
海上（IMDGｺｰﾄﾞ）： 法令の基準に従い積載、運送を行う。
航空（ICAO-TI/IATA-DGR）： 法令の基準に従い積載、運送を行う。

国連分類：該当せず
国連番号：－

15.適用法令

消防法 ：危険物第 4 類第 4 石油類
労安法　通知物質 ：法第 57 条の 2､施行令第 18 条の 2 別表 9（168 鉱油）

16.その他

本製品に関する有害性等の文献はありません。従って、その評価は原料メーカーからの資料を基に安全に取り扱う為の留意点としてまとめたものであり、データは充分ではありませんので、取扱には充分ご注意をお願い致します。